

腸管出血性大腸菌（三類感染症）

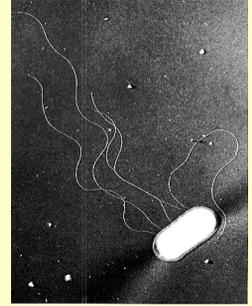


腸管出血性大腸菌感染症とは

腸管出血性大腸菌感染症は、**ベロ毒素**を産生する大腸菌の感染によって起こります。

主な症状は、**腹痛・水様下痢・血便**などの症状で、重症化すると**溶血性尿毒症症候群（HUS）**などの合併症を引き起こして死に至ることもあります。

全国では毎年約4,000件の届出があり、福岡市でも毎年多くの感染者が報告されています。菌が少数でも感染するため、集団発生事例や家族内感染事例が多く報告されています。



腸管出血性大腸菌 O157の電子顕微鏡写真
(提供) 国立感染症研究所



検査について

保健環境研究所では、感染症法に基づき感染者及びその接触者等の検査を行っています。また、疫学調査や分子疫学解析により腸管出血性大腸菌感染症の原因を究明し、感染拡大防止に努めています。



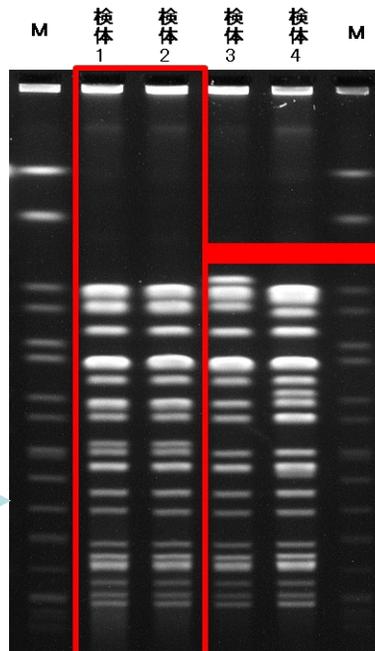
分子疫学解析

集団事例や関連性が疑われる事例が発生した際には、感染源の究明のために分子疫学解析を実施しています。

分子疫学解析に用いられている主な手法

- ・IS-printing System
- ・PFGE法
- ・MLVA法

バンドのパターンを比較して疫学的な関連性を調べる



(解析例)

PFGE法による分子疫学解析を実施

検体1と検体2の

バンドパターン一致

同一起源に由来する菌株である可能性が極めて高いと考えられる